

# 未来都市創造に関する特別委員会 市民報告会 記録

日 時：令和4年5月27日（金）午後6時0分～午後7時31分

場 所：市会本会議場

出席者：未来都市創造に関する特別委員会委員

委員長 五島大亮

副委員長 高瀬勝也

理 事 河南ただかず 三木しんじろう 味口としゆき やのこうじ あわはら富夫

委 員 さとうまちこ 山本のりかず 吉田健吾 岡田ゆうじ 西ただす 軒原順子

大井としひろ 吉田謙治

(午後6時0分開会)

○**理事**(やのこうじ) 皆さん、こんばんは。

定刻になりましたので、ただいまから神戸市会未来都市創造に関する特別委員会、市民報告会を開催いたします。

私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、未来都市創造に関する特別委員会理事のやのこうじです。どうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございます。

本日は、この本会議場のほうにお越しいただきまして誠にありがとうございます。

この後、着座にて失礼させていただきます。

まず、開会に先立ちまして、御来場の皆様にお願いがございます。

本日の会議中は、報道機関や市会事務局を除いて写真撮影やビデオ撮りはできませんので御注意ください。なお、本日の報告会の模様はインターネットで配信されますので御留意ください。携帯電話は電源をお切りになるか、マナーモードに設定をお願いいたします。会場内では飲食及び喫煙は禁止です。皆様のお席の前にある黒い名前立てには手を触れないようにお願いします。最後に、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、手指の消毒及びマスクの着用にご協力をよろしくお願いいたします。

本日は、議場での開催ということで、議場に初めて入るといの方もおられると思いますので、簡単に説明させていただきます。

今、皆様が座っておられる席は、ふだん市会本会議などで我々議員が座る席です。そして、皆様から向かって左側、こちらは、ふだん市長や副市長、局長などが座る席で、向かって右側、こちらは、ふだん教育長や選挙管理委員長などが座る席です。本日は、それぞれ最前列に未来都市創造に関する特別委員会の正副委員長、理事を初め15名の委員が着席をしております。2列目以降はその他の議員等が着席をしております。

それでは、本日のスケジュールを説明いたします。

まず、委員会活動報告として、令和3年度の未来都市創造に関する特別委員会の活動や市長への提言内容などについて御説明した後、質疑応答の時間を設け、御来場の皆様からの御質問にお答えをいたします。終了予定時刻は19時半頃を予定しております。

では初めに、未来都市創造に関する特別委員会の五島大亮委員長より、皆様に御挨拶を申し上げます。五島委員長、よろしくお願いいたします。

○**委員長**(五島大亮) 皆様、こんばんは。本日は、お忙しい中、本報告会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。諸先輩方がおられる中で大変僭越ながら本年委員長を拝命しております、五島でございます。よろしくお願いいたします。

昨年6月から始まった当委員会では、「災害に強く、様々な危機にしなやかに対応できる回復力・復元力(レジリエンス)の高いまちづくり」そして、「神戸ならではの歴史や地形を活かしたまちづくり」をテーマに議論を重ね、提言書を作成いたしました。去る5月13日にこれを市長へ提出したところであります。そして、本年1年の締めくくりといたしまして、本日、このように報告会を開催させていただきました。年間を通じて活発に議論をいただきました委員の皆様、そして1年間サポートいただきました事務局の皆様、そして、平素より多くの御意見をいただいております市民の皆様、本日お越しいただきました会場の皆様に感謝を申し上げて開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○理事（やのこうじ） それでは、委員会活動報告に入らせていただきます。

未来都市創造に関する特別委員会は、新たな時代の神戸のまちづくり、特に都心・三宮再整備事業など、神戸の将来に大きく影響する課題について、独自に調査、議論を行い、市長に政策提言を行っています。

そこで、今年度の委員会の活動や市長への提言内容について御報告する前に、現在進められている都心・三宮再整備事業について、未来都市創造に関する特別委員会の高瀬勝也副委員長から御説明いたします。高瀬副委員長、よろしく願いいたします。

○副委員長（高瀬勝也） ただいま御紹介をいただきました、副委員長を務めております高瀬勝也でございます。

本日は、私のほうから——今司会からもありましたけれども、都心・三宮再整備の概要につきまして御紹介をさせていただきたいと思っております。

まず、都心・三宮再整備を進めるに当たりまして、都心をどのような形に変えていくのかという将来像を市民の皆さんと一緒に議論をさせていただきました。それを踏まえまして、南北2キロ程度——これは新神戸駅からウォーターフロントのところまででございます——また、東西3キロ程度——これは神戸駅から生田川の辺りまで——のこの赤い線の範囲を対象に将来ビジョン、また、三宮駅周辺の半径500メートル、青い線の範囲を対象に再整備基本構想がいずれも2015年9月に策定をされたところでございます。

新たなまちづくりのコンセプトといたしまして、駅を出た瞬間に訪れた人々が自然とまちへ誘われる「美しき港町・神戸の玄関口」が掲げられております。広く豊かな屋外空間を沿道建築物と一緒に整備をしまして、密を避けながら、安心して駅から周辺エリアへ回遊していただける、人が主役の居心地の良いまちが創出されます。

次に、都心・三宮再整備の概況ですけれども、三宮駅周辺エリア、この左の上の部分でございます。2021年4月には、御案内のとおり、神戸三宮阪急ビル、サンキタ通りがリニューアルオープンをしました。そして、この3月30日にはJR三ノ宮新駅ビルの計画が発表されたところでございます。また、中・長距離バスを集約する新たなバスターミナルや人と公共交通優先の空間である三宮クロススクエアの事業が進められております。

また、左下辺りですけれども、ウォーターフロントエリアでも再開発が進められておりまして、2021年10月には、神戸ポートミュージアムがオープンしたところでございます。

そして、その右側でございますが、この2つのエリアの中間部といたしまして、市役所本庁舎2号館、また、中央区役所・中央区文化センター、東遊園地、及びこれらを接続するフラワーロードの再整備が行われることになっております。

それでは、各事業につきまして、完成時期別に御説明をさせていただきます。先ほども申し上げましたけれども、阪急神戸三宮駅の北側エリアでは、昨年4月に神戸三宮阪急ビルが開業をいたしております。また、隣接するサンキタ通りにつきましては、歩行者中心の空間として、神戸三宮阪急ビルと一体的に整備を行いまして、'21年10月にはさんきたアモーレ広場がオープンをいたしました。

次に、この7月19日——再来月に開業予定でございます、市役所本庁舎3号館の跡地に整備をされます新中央区役所・中央区文化センターでございます。1階と9から11階には文化センター、そして、2から8階は区役所になります。文化センターには、会議室、美術室、音楽室等の特定目的室などが整備をされております。

続きまして、東遊園地の整備でございます。まず、南側につきましては、建築家の安藤忠雄氏から寄贈をいただきました子供のための図書館、こども本の森神戸がこの3月25日にオープンを行いました。園地の部分につきましては、昨年度に北側エリアより着工しておりまして、2022年——今年の秋ににぎわい拠点施設がオープンをして、さらに来年秋には全体が完成をする予定でございます。

そして、市役所本庁舎2号館の再整備につきましては、三宮駅からウオーターフロントまでの回遊性の向上などを目的に、新庁舎・にぎわい施設を整備予定でございます。現在、建物の設計・建設を行う民間事業者の公募を実施しておりまして、この7月頃に事業者を決定した後、設計・工事を行いまして、2027年頃——約5年後をめどに完成をする予定でございます。

次に、新たなバスターミナルが入る再開発ビルでございますが、第1期、第2期と段階を踏んで事業を進めていくこととしております。2020年4月には、国の直轄道路事業として事業化されましたバスターミナルを含む第1期再開発ビルは、これも2027年度頃完成予定としております。

次に、JR三ノ宮新駅ビルの開発でございます。先ほども申し上げましたけれども、3月30日にはその概要が発表されたところでございます。神戸の玄関口に必要な機能として、低層部にはにぎわい施設（商業施設）でございます。中層部にはオフィス、高層部にはホテルが計画をされておるところでございます。なお、このビルにつきましては、2023年度着工、そして2029年度開業が目標のスケジュールと聞いてございます。

次に、今、御説明をしましたJR三ノ宮新駅ビルとバスターミナルをつなぐ三宮駅周辺のデッキ整備について御紹介をさせていただきます。この「えき～まち空間」の実現のために地上レベルの三宮クロススクエアに加えまして、乗換え動線の改善や拡充、新たなバスターミナル周辺でのバスと歩行者の分離、駅とまちをつなぐ歩行者の回遊性の向上を目的とした歩行者デッキが整備をされます。こちらにつきましても周辺の開発と併せまして2027年度以降順次完成をする運びとなっております。

そして最後に、都心からウオーターフロント間の回遊性や都市魅力の向上のために、2021年4月より連節バス——ポートループが運行中でございます。御覧になられた方もいらっしゃるかと思います。今年の4月には新神戸駅までルート延伸を行いまして、東遊園地やウオーターフロントのかもめりあ等に新たなバス停を設置いたしました。そして、今年度中——2022年度中には神戸駅への延伸へ向けまして、現在、関係機関で協議が進められているところでございます。

非常に簡単ではございますけれども、以上、都心・三宮再整備につきまして御紹介を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○理事（やのこうじ） 次に、令和3年度の委員会の活動経過や、先日、久元市長に提出いたしました提言書「様々な危機にしなやかに対応できる神戸のまちづくり」について、五島委員長より御説明いたします。よろしくお願いいたします。

○委員長（五島大亮） それでは、再びでありますけれども——まず、皆様に我々の未来都市創造に関する特別委員会が何なのかということを少し説明をさせていただきたいと思っております。

我々の市会では、全議員が入りました常任委員会というのが6つございます。そして、それとは別に特別委員会というのが3つございまして、その1つが外郭団体に関する特別委員会——外郭団体の審査です。そして、もう1つが、大都市行財政制度に関する特別委員会ということで、国に対して意見、要望などをしていく委員会でございます。そして、最後の3つ目が我々の未来都市創造に関する特別委員会ということで、これは、議会の立場から独自の政策提案・提言を行

うということで、この神戸市会初の試みとして設置をされた特別委員会です。平成26年の5月に設置をされまして、今年で8年目になります。そして、皆様のお手元にございます提言書を提出いたしますのがこれまでで4回、今回で市長に対して5回目の提出をさせていただいたところです。そして、この市民報告会は、今までで何とこれが2回目の開催になります。そして、メンバーですね、この最前列に座っている委員が私どもの委員のメンバーとなっております、69名の全神戸市会議員の中の15名で構成しております。満遍なくいろんな会派から構成をされるように設定をさせていただいております。

そして、今年、参考人として招致させていただいた専門家の皆様を御紹介させていただきます。既にまちづくりがもう新しく変わっておりまして、阪急三宮の北側の、今アモーレ広場と呼ばれている、昔はパイ山であったりでこぼこと言われていた広場の設計をしていただきました、建設設計集団ALTEMY代表の建築家、津川恵理様、そして、Ma a Sといたしまして、モビリティ・アズ・ア・サービスとあって、いろんな乗り物とIoTを組み合わせたサービスの内容を聞こうということで、西日本鉄道株式会社自動車事業本部未来モビリティ部の日高 悟様をお招きしました。次に、皆様よく御存じだと思います、園田学園女子大学名誉教授の田辺真人氏には、神戸市が今からやろうとしている神戸駅前の再整備を歴史や地形を生かした神戸のまちづくりという観点からお話をお聞きさせていただきました。そして、最後に、先ほども御説明ありました三宮クロススクエアの交通課題ということで、将来ここの自動車の交通を遮断しようかどうかということに対して、遮断して本当に大丈夫なのかということテーマにいたしまして、東京工業大学の環境・社会理工学院教授の朝倉康夫様においでいただいたところでございます。

そして、提言の内容ですけれども、皆さんにこれはお読みいただくしかないんですが、防災、そして、コロナ対策は当然至るところに盛り込まれておりますが、委員の皆様様の様々な提言の切り口といたしまして、環境であったりSDGsの観点から、都心の一定エリアに電気自動車など環境に優しい車のみが進入できるエリアをつくってはどうか、ヒートアイランド対策として、壁面や屋上の緑化、緑を増やすまちづくりに努めてはどうか、環境に配慮した自転車道や自転車置き場の設置を進めてはどうか。そして、交通という観点から、移動権を確保することを保障する交通整備をやっていけばどうか、そして、自転車、そしていろんな乗り物を含めたバス、電車まで様々な交通手段のベストミックスを確立した誰もが移動しやすいまちづくりをしていってはどうか、それから、デマンド交通など、コミュニティ交通を加速度的に導入していってはどうか、パーク・アンド・ライドの推進をしていってはどうかなどという提言があります。また、新たなテクノロジーという観点から、AIを利用したデマンド交通の推進をしていってはどうか、コロナ対策という点からも非接触型のインフラ整備を行ってはどうか、無人運転の実験をさらに行っていってはどうか、そして、空飛ぶ車やドローンなどを見据えた空の道の整備を神戸市内で行ってはどうかという提言。そして、ハードそのものの在り方という観点から、未来を見据えたインフラ整備に余裕を持たせた設計をしていってはどうか、そして、クロススクエアについては、車の流れを遮断する必要性を再度議論すべきではないか、都心への投資がコロナ後も適当なのか再検討すべきではないか、タワーマンションの規制を再検討していくべきではないのか。神戸駅前について、西国街道の歴史を生かし、湊川神社などとの一体感のあるまちづくりをしてはどうか。あと、音楽や芸術、食という要素を取り入れたまちづくり、そして、商業港、漁業港としての産業支援をまちづくりに加えてはどうか。こういったいろんな提言を書かせていただいております。

そして、この提言書を作る仕組みとして、基本的に全会派15人が一致したものが提言として掲載をされるという仕組みで本委員会を運営させていただいております。委員の皆様からも積極的に提案をたくさん出していただきましたので、この提言が——15人もおりますから、重要だと思うポイントが違っていたり、意見そのものが違うこともあり、そのままでは提言とできない項目もありました。ただそこは、皆さん神戸市をよくしたいという目的は同じですから、文言を変更するなど、非常に高度な調整をした上で、できるだけ多くの項目を記載できるように努力をさせていただきました。どうしても意見が合わないものについては、協議の過程で一致しなかった内容として記載をさせていただいております。全ての項目について皆さんが大賛成というわけではなく、我慢の産物である項目もあります。紙面からは分かりませんが、ある意味で多様性をお互いに認め合って作った集大成であるともいえます。こういったことを申し添えさせていただいております。

さて、市長の反応ということで、5月13日に提言書を提出させていただきました。そのときに我々の理事を中心に市長と意見交換もさせていただきました。市長の反応ということでスライドに紹介させていただいておりますが、まず、気づいていなかった点をかなり指摘をしていただいているということで、これは純粋にお喜びいただきました。あと、自然環境を生かし、密なく暮らし働くライフスタイルを推し進めることが神戸の差別化の戦略ではないかという意見。ヒートアイランド対策の推進も非常に大切です、壁面緑化や屋上空間の利用も三宮ターミナルビルや新2号館などで具体的に取り入れていきたい。そして、クロススクエアで交通を遮断するつもりはありません、車線の段階減少はシミュレーションなどを重ねて、時間をかけて検討させていただきたい。それから、鉄道とバスだけで今後に対応するには限界があります、コミュニティ交通の必要性は非常に高い。自転車は重視したい、駅前の駐輪場を刷新するつもりで現在議論をしています、公共交通には新しいテクノロジーを取り入れたい、コロナで止まっているような自動運転の実証実験などにも取り組んでまいりたい。それから最後に、歴史を生かしたまちづくりには同感です、JR神戸駅前には湊川神社や歴史資源があるので、歴史が感じられる荘厳な印象にしたほうがいい、というようないろいろな反応をいただいたところです。

全体として、我々の提言書も建設的なものになっておりますので、市長もこれに沿っていろいろな建設的な意見を言っていただいたという反応があったのかなと思っております。

最後に、神戸の未来のためにということで、神戸は日本の縮図であると言われております。GDPは6兆5,000億円余り、そして、人口が150万人おります。山があって海があって、都心があり、郊外の住宅地があり、そして、農村もあります。港があって空港もあります。神戸市では、こういったことも踏まえて、日本の100分の1の縮図であると言われております。神戸が変われば日本も変わります。神戸には、神戸発祥のものがたくさんあるのは、もう皆さん御存じだと思っております。ラムネに始まってソース、コーヒー、ジャズ、映画、ほかにスポーツでは、サッカー、ラグビー、ゴルフ、ほかにもいろんなものが神戸発祥だとされております。そして、山、海へ行くという言葉があつたり——株式会社神戸市ですね、それからポートピア'81などなど、過去にはこの日本中の各都市が神戸市のまねをしようとして、頑張つて神戸に来て、いろんなものを盗んでいったという経緯があります。

今、日本中が停滞している雰囲気を持っている中で、我々神戸市が新しいチャレンジ、新たなまちづくり、そして新たな技術の取り入れなどを行って、発信をしていくことで、また再びこの神戸市が日本の見本となって、日本中が発展していく未来があると私は信じております。

そして、日本が変わるアイデア——神戸が変わるアイデアは無限大です。そのアイデアはこの委員会の中で話し合ったものもしかりなんですけれども、150万市民の皆様が日常に——会話の中に沸々とあるものであったり、市職員の皆様が発想する中であったり、我々議会人が行う議論の中にあたり、様々なところに無限大に存在しているものであります。

そして、そのアイデアを有機的につなげて、私たちの子供の世代、孫の世代、そしてそのもっと未来の子供たちの世代が笑顔でいられるまちづくりを行っていくことが我々議会の仕事であり、使命であると考えております。そういった思いでこの提言書を作成させていただきました。

本日は、この提言書の中身、そして神戸の未来について、時間の許す限り大いに皆様で語り合ってくださいをお願いいたしまして、私からの説明とさせていただきます。どうも御清聴ありがとうございました。

○**理事**（やのこうじ） ただいま、五島委員長から御説明しましたように、未来都市創造に関する特別委員会では、この1年間幅広い観点から調査、議論を行ってまいりました。議論の中では、各会派間で意見が一致しないものもありましたが、できる限り多様な意見を認め合い、会派間の意見の違いを超えて提言書として取りまとめています。そこで、ここからは、各委員から提言に対する思いを一言ずつ発言させていただきます。時間の関係で、委員1人2分という非常に短い時間ですが、よろしく願いいたします。

委員の方々は、10秒前になりましたらベルでチンチンとお知らせしますので、発言をおまとめください。では、まず、河南ただかず理事、どうぞ。

○**理事**（河南ただかず） 理事を拝命しております市会議員、中央区選出の河南ただかずでございます。どうぞよろしく願いいたします。

私からは、提言いたしました未来の安全について2つ、皆様に御報告をいたします。1点目は、未来の要援護者支援でございます。都心のマンションにおきましては、オートロック等が非常に進んでおりまして、プライバシーの重視が大変進んできております。民生委員の方とか、あるいは児童委員の方が相談や声がけをなさっておるわけですけども、なかなかこのプライバシー重視が邪魔になって安否確認が非常に難しいという問題がございます。この住民のデータを市の関係機関がしっかりと把握して、管理して、そしてますますこれをもっと有効活用していくということがこの神戸市にとって、未来の要援護者支援にとって重要じゃないか、そしてもっとこれを深く掘り下げていくべきだということを提案しております。

そして、2つ目の安全ですが、武力攻撃に対する安全の確保、避難場所の問題でございます。実は、この問題に関しましては、協議の過程で一致しなかった安全の問題でございます。お手持ちの資料の13ページに載っておりますが、地震や津波などは、神戸市は検討しているわけですが、ウクライナの武力侵攻を見るに、都市がミサイルや核の攻撃を受けたときには、神戸市がそういうことになったときにどこに逃げるのか、あるいは何をすればいいのかということが全く議論されてないんじゃないかということを私は提言をいたしました。しかしながら、ウクライナの侵攻を契機に国防の問題を論じるのは軽率じゃないかという御意見がありまして、残念ながら提言には載りませんでした。しかしながら、私はこの都市の安全というものを声高に言っていこうと思っております。

以上でございます。ありがとうございます。

○**理事**（やのこうじ） 次に、三木しんじろう理事、どうぞ。

○**理事**（三木しんじろう） 中央区選出の三木しんじろうでございます。

新型コロナウイルスの感染拡大によって市民の皆様の生活様式とか、また、オンラインによる働き方、そして、学校による学び方も大変大きく変化をしたと思います。今日来ていただいた皆様も実感をされていると思います。このコロナ社会、それと震災を経験した神戸だからこ所他都市よりも感染症や自然災害に対応できる安全な環境に配慮したまちづくりということを行っていかねばならないと思います。

また、現在、IoTやAIの技術など、時代とともに進化していくスピードが大変速まっております、こうした技術も入れ込んでいく必要もあると思っております。

先ほども御説明ありましたが、神戸は山と海に囲まれ、恵まれた環境でございます。そして、多くの歴史的な建造物もあります。こうした他都市にはないものを生かしながら、長年にわたり構築され発展してきた、例えば三宮駅もそうです——ウオーターフロント、メリケンパークやハーバーランド、そして南京町や北野や旧居留地などといった、そういったゾーンの特性を生かして、それに加えて神戸空港、これは私は国際化も進めていくべきだと思っております。そして、神戸港、新神戸駅、こうした神戸の窓口——玄関口となるようなところも手法を加えて分かりやすく、そして、便利につないでいく、こういうことも行っていかねばならないというふうに考えております。

まちづくりを進めていく上で、規模は違えど、例えば、日本中どこに行っても同じような町並みになってしまうのは、私はつまらないと思いますし、神戸独自のまちづくりも行っていかねばならないと思います。そのためにも、様々な世代の方々から御意見を聞く、そして、専門家の方からも御意見を聞いて、神戸市独自のまちづくり、何が必要とされているのかということや次世代の公共交通も含めて想定して、未来のためのまちづくりを行っていきべきだと考えております。どうぞ本日はよろしく願いいたします。

○理事（やのこうじ） 次に、味口としゆき理事、どうぞ。

○理事（味口としゆき） 味口としゆきでございます。

本特別委員会は、昨年、ポストコロナ時代に適合した持続可能な神戸のまちづくりという提言を出しております。昨年の提言では、新型コロナウイルス危機において、いわゆる3密を回避することが必要とされる中、満員電車や都心のオフィスなど、都市の過密という課題が改めて顕在化し、新型コロナウイルスと共存する働き方や住まい方への変革が求められていますとして、三宮再整備やこれに関連する事業のコンセプトも従来どおりでよいかどうか掘り下げて考える必要がありますと神戸市に従前施策の再考を求めました。しかし、神戸市は、この提言を考慮することなく、今年度予算案では都心・三宮再整備に178億円もの予算が従来どおり措置されて、雲井通5丁目バスターミナルビルは、総事業費1,000億円のうち神戸市負担は520億円に及ぶなど集中的な投資が進められています。

久元市長は、経済活動は民間業者の活動が思う存分自由に展開できるようにするということが基本、行政の役割というのは、基本的にはインフラ整備とし、魅力あるまちづくりをして、そこに様々な企業が立地する、人がたくさん集まってくると語りました。

しかし、神戸市が都心・三宮再整備に集中的に投資しても10年連続の人口減少、そして、10年で最も人口減少していることに端的に表れているように、人も集まらないし、神戸経済の成長もなされていないのが現状であります。呼び込み偏重の巨大開発の推進では都市の持続的発展はないということは明らかだと思えます。神戸市は、都心・三宮再整備への集中的投資をやめるべきだと考えます。



以上であります。

○理事（やのこうじ） 次に、あわはら富夫理事、どうぞ。

○理事（あわはら富夫） つなぐ議員団のあわはら富夫です。

市会が会派を超えて意見をまとめて、市民に直接の報告会を持てたこと、実は、私、前々から議会の見える化改革を主張してきてまして、私としては、非常にこういう会が持てたということを楽しんでおります。

それで、今回のテーマで、私が意見を述べたことを2点紹介したいと思います。

その1点は、災害と地球温暖化に対応したまちづくりで、特にリザーブ用地の必要性と都市緑化です。持続可能なまちをつくっていくという場合に、都心ではどうしても高層建築物が多くなりますけれども、これをやっぱり最小限にして、中層建築物を中心にして、将来の建て替えも想像した、そういうリザーブ用地というものを絶対私は確保する必要があると思います。そのリザーブ用地というのは、公共空間として、平常時には、例えば憩いだとか、遊びだとか文化だとか、また、都市農園にもなったりして、しかも災害のときには避難場所にもなり得ると、そして、大きな被害を受けても空間があればしなやかに元に戻れる工夫もできるということがあると思います。

もう1点は都市緑化です。これは、先ほど委員長のほうからも説明ありましたが、都市計画の段階で、例えば風の通り道を担保する、ビルの壁面緑化をやる、市街地緑地の保全を、また、公園緑地を拡張する、あらゆる場で緑を創造して、エネルギー消費量の低減を図るような都市づくりをやってはどうかということを提言させていただきました。

そして、2つ目の提案は公共交通の再評価です。実は、財政問題を抱える公営交通、存続自体が危ぶまれています。しかし、公営交通を再度見直そうという意見がたくさん出ています。これなぜかというと、高齢化社会、そして環境問題です。したがって、公共交通を守ることは、高齢者の社会参加だとか、介護の自治体負担を減少させたりとか、環境負荷を低減させたりする、これを財政的にどういう効果があるんだということを財政的に計って、そのお金を公的な公共交通支援のために使うという制度をつくったらどうかと、そうすれば持続的な公営交通を守るのではないかというふうに思います。

以上です。

○理事（やのこうじ） 次に、さとうまちこ委員、どうぞ。

○委員（さとうまちこ） 皆さん、こんばんは。垂水区選出のさとうまちこでございます。

本当に未来都市の委員会の中では非常に闊達な議論、そして私も交通のことなどいろいろ提案させていただきました中で、私の提案ということでお伝えしたいと思います。

まちの魅力は、そこの住む人が生きてこそ輝きを増すことにはないでしょうか。例えば、女性が神戸に就職したくなるような有名企業のサテライトオフィスの誘致、そして、自身が輝いていると感じられる仕事を持てるまちというのは非常に重要なポイントとなります。リモートワークとは別の話で、拠点は当然必要ですので、2号館などを拠点にすると雇用の創出や駅からの人の流れができ、にぎわいなどにも大きく貢献することにはないかと思います。また、それに伴い、そこそこに子育てに関するハードを充実させるべきだと思います。人口が流出し続けています神戸市においては、他都市との差別化となる抜本的な施策を推進する必要があると感じております。

また、京都や大阪にないにぎわいづくりのため、莫大な市場価値を生み出しているアニメに着

目するのもおもしろいと思っています。図らずも人気アニメーション制作会社シンエイ動画が本市での事業を開始されます。三宮センタープラザやハーバーランド等をアニメに特化したエリアにし、民間会社とのコラボレーション企画で様々なイベントの開催など、海外からの集客効果も期待され、その相乗効果、経済効果は計り知れません。体裁を整えただけのどこにでもあるようなまちでは、また来たいという魅力には欠けてしまいます。誰もが子育てしやすい、訪れたときに住みたいと感じていただけるよう、安定したまちの活気を取り戻すべく、今後は、現実的な具体策を持って取り組むべきと考えます。

以上です。

○理事（やのこうじ） 次に、山本のりかず委員、どうぞ。

○委員（山本のりかず） 皆さん、こんばんは。山本のりかずです。

私からは——神戸には非常に多くの地域の独自性であったり歴史が多く存在しているわけなんですけども、神戸駅前再整備に関して、田辺先生もおっしゃっているように、神戸駅前と湊川の神社の間には、日本の歴史を振り返れば西国街道が通っており、歴史上の著名人が通っていたと言われております。そのようなことを踏まえれば、歴史を生かしたまちづくりを進めていくことが重要ではないかと私は考えております。例えば、西国街道に関する説明板であったりとか、文章で歴史を感じ取れるようなモニュメントであったりとか、神戸駅前に日本の神戸のよさを感じることができる——例えば私なんかは、日本の伝統を生かした——日本には多くの森林がございますので、兵庫県産材の木材を利用したりとか、例えば六甲山なんかは非常に多くの山、そして、森林がありますので、そういった木材を利用したデザイン性があふれるようなモニュメントなどを設置すればいいのかなと個人的には思っております。

また、元町付近に目を向ければ、皆さん御承知のとおり花隈城が存在しています。日本の各地域を見ますと城っていうのは本当に経済にとっても、そして観光客を誘致するに際しても、そしてなおかつ地元が元気になるためにも非常に重要で、歴史的な城をもっともっと有効活用できるのではないかなと思っています。他都市の事例も参考にしながら、地域活性化や、先ほど申し上げましたとおり多くの観光客に来ていただき、地元の経済が活性化していく整備が必要ではないかと思います。

最後に、神戸特有の地域の歴史を具現化することで、神戸の経済が活性化することを期待しております。

以上です。

○理事（やのこうじ） 次に、吉田健吾委員、どうぞ。

○委員（吉田健吾） 自由民主党の吉田健吾でございます。

私は、今回の提言の中に大きく2つ提言項目がある中で、それぞれ今と未来ということを考えて書かせていただきました。災害に強く、危機にしなやかに対応できる回復力、復元力については、まず、公共交通の在り方ということで、現在ですけれども、鉄道・バスでは公共交通が行き届かない地域に対して、垂水区のタクシーやワンボックスカーなどを利用したしおかぜのような新しい地域交通というものをしっかりと整備していただきたいと書きました。こうすることによって、災害時には、鉄道やバスというのは機動力が減ってしまいますけれども、そういう小さい車も公共交通として担保されていることが安心したまちづくりにつながると考えております。

未来についてでございますが、現在は、車が減っていく社会というふうになっておりますけれ

ども、技術革新というものが日に日に進んでいく中で行くと、もしかしたら将来、数十年後には、1人1台車に乗っていないといけない時代が来るかもしれない、そうしたことも踏まえて、道路を整備したりだとか、建物を配置するというのを考えて、柔軟なまちづくりをすることによって、将来、20年前にやったことがツケを残すようなことにならないようにしていただきたいと提言しました。

もう1つ、神戸ならではの歴史や地形を生かしたまちづくりにつきましては、現在でいきますと国際都市神戸の魅力を生かしたまちづくりということで、神戸には、開港以来たくさんの外国の方々がいらっしゃって、そして多くの宗教施設というものがあります。イスラム教の寺院であったりとか、ユダヤ教の寺院であったりとか、一般的な都市にはないものが神戸にはある、これをしっかりと魅力として整理することによってまちを輝かせていただきたいというふうに思いました。

また、最後に、未来としては、さんきたアモーレ広場が非常に新しいデザインとして活気を帯びております。こうしたことは、門戸を開いて若い建築家が採用されたことが1つの大きな要因だと思いますので、今後の公募については、門戸をさらに広く開いて、新しい観点のまちづくりをしていただきたいと提言いたしました。

以上です。ありがとうございました。

○理事（やのこうじ） 次に、岡田ゆうじ委員、どうぞ。

○委員（岡田ゆうじ） こんばんは。垂水区の岡田ゆうじでございます。

冒頭、最初にちょっと三宮再開発のきれいなパワーポイントの説明がありましたので、私も初めて見たようなものがありまして、ただ、この委員会で、別に三宮再開発のことだけを話をしていたわけではなくて、むしろ神戸駅——この歴史と文化の中心である神戸駅をどうしようとかです、提言を見ていただいたら分かるお通り、むしろ三宮だけではなくて、私たちの神戸市、例えば垂水駅もそうですし、名谷駅もそうですし、西神中央もそうです。やっぱり神戸の9つある行政区、そして、この神戸全体がやっぱり共に発展していかないと、将来人口が増える神戸にはなりません。

私は垂水の選出だから余計垂水のことには思い入れがあるわけでありましてけれども、やっぱり地方の駅前を降りて、そこからバスがあったり、自分の行きたいところへ行ける、公共交通というのがしっかりとこの地域の中で根づいていることが一番大事であります。だから、私たちの実際に住んでいるところ、この駅前がどういうまちの姿を表しているか、そして、自分の行きたいところへ行ける、そういう公共交通がしっかりと発達していることが大事でありますので、この人口減少の中で、そして、三宮のような大都会じゃない地方で、どのような交通体系が持続可能なものかということについて今回は提言で書かせていただきました。ぜひ公共交通——本当に地域の中で、住んでいる中で、最近コミュニティバスとかいろんな形態がありますけれども、どのようなものがあるのか、また、市民の皆さんからも私たちにお知恵を貸していただければと思います。今日は本当にお集まりいただきましてありがとうございました。

以上でございます。

○理事（やのこうじ） 次に、西 ただす委員、どうぞ。

○委員（西 ただす） 日本共産党の西 ただすです。

私からも今回の提言と都心・三宮の再整備についての考えをお話させていただきたいと思いません。

提言においては、ポストコロナ、ウイズコロナ時代のまちづくりのところに、都市の過密の課題が顕在化する中でも事業のコンセプトは従来どおりでよいのかという点が大きな問題となってきました。コロナを通して企業の事業への考え方も変わり、今後も今回のような感染症を想定しなければならない、その中で三宮に様々な施設を集中し、人がこれまで以上に三宮の中心街にやってくることを前提としたまちづくりの在り方でいいのか——こうしたところは委員会での提言、市長が全く顧みていないのではないかというふうに思います。これまでの計画に固執し、オフィスや宿泊施設を誘致し、公共施設に民間事業者を入れ、大量のインバウンドなどに期待したまちづくりを行うことは、神戸市にとって大きな財政的な負担になります。それは、一部の事業者への支援になるかもしれませんが、この間の神戸の状況を見ても市民生活の改善につながってこなかったのではないのでしょうか。

現在、これまでの神戸のまちを支えてきた、地域に密着した既存の中小の事業者は、コロナや物価高騰などの影響で厳しい状況にあります。こうした支えてきた人たちをもっと重視したまちづくりは考えられると思いますし、そこをやっぱり置き去りにしては神戸の経済の活性化はないという点から、やはり集中しての今回の開発というやり方は見直すべきではないかと思っています。

以上です。

○理事（やのこうじ） 次に、軒原順子委員、どうぞ。

○委員（軒原順子） 皆様、こんばんは。公明党、軒原順子でございます。よろしくお願いいたします。

神戸の魅力を生かしたまちづくりを目指していきたいと思っております。私のほうからは2点上げさせていただきます。

1つは、カーボンニュートラルに向けてCO<sub>2</sub>排出量の割合が大きい自家用車を減らし、公共交通機関や自転車を積極的に使用するためにも、駐輪場や自転車の走行空間の確保の検討が必要と考えております。昨日、ちょうど市長会見で地下タワー式駐輪場の整備というお話があったかと思うんですけども、本当に使いやすい、そういった駐輪場の整備などをしていけたらと考えております。また、同時に乗る人のマナーの向上、こういったこともしっかりと取り組んでいかなければいけないと思っております。

2つ目は、共生社会の実現に向け、障害者の目線に立ったバリアフリーの推進が大事であると考えております。バリアフリーが本当に進んできておりますけれども、なかなか障害者の方にとって使いづらいものがあつたりとか、そういったことも後でお聞きをしたりしますので、本当に障害者の方、当事者の方の目線に立った、そういったバリアフリーの推進を考えていくことが大変重要と考えております。

最後に、今コロナ禍、また、ウクライナ危機など大変な社会情勢の中であるんですけども、これを乗り越えていくことが次の飛躍に必ずつながっていくのではないかと確信をしておりますが、今起こっていることをしっかりと捉えながら再整備事業に取り組んでいけたらと思っております。

以上です。ありがとうございました。

○理事（やのこうじ） 次に、大井としひろ委員、どうぞ。

○委員（大井としひろ） こんばんは。国民民主党・友愛の須磨区から選出をいただいております大井としひろです。

私のほうから提言させていただいたのは、都市空間、公共空間の在り方ということで、今までのような車中心社会から転換し、徹底した人中心の未来都市神戸を構築してほしいということを提言させていただきました。具体的には、三宮の都心部への進入は、鉄軌道、バス、LRT、ロープウェイ等公共交通に限ることとし、基本は徒歩、自転車、車椅子と人が中心のまちづくりを進められたい、なお、都心部への貨物の搬入については、貨物専用レーンを設置の上、貨物車の乗り入れも可とする、パーク・アンド・ライドシステムの推進を図られ、都心周辺部に地下駐車場の整備を図られ、都心部に大量の自転車が置けるような大地下駐輪場の建設を計画されたい、そして、電気自転車で周辺駐車場、住宅地から都心部へ進入する、そういう自転車道の整備を図っていくべきだと提言させていただきました。都心部には、電気・水素自動車以外は乗り入れ禁止等の導入で、環境に優しいまちづくりも推進してほしいと提言させていただきました。

また、三宮－神戸駅間のJR、阪急の地下鉄化も推進され、空いた土地を再活用し、まちの活性化を図ってほしいということも提言させていただきました。

そして、神戸市では、予算低減・削減のために街路樹の伐採が進められておりますが、反対だということを申させていただきます。緑化を進め、地球温暖化を阻止し、都心のヒートアイランド現象の原因であるコンクリートやアスファルトを減らす工夫を推進されたい、街路樹の増植、屋上緑化、公共施設、公園、学校の校庭、駐車場やLRT軌道上の芝生化の推進を図られたい、そして、大深度の地下を活用した地下大都市神戸の構築も取り組まれたい、そして、空飛ぶ車——そういう車のターミナルの建設も視野に入れて、空飛ぶ車のルート等も研究されたいというようなことを提言させていただきました。

以上です。

○理事（やのこうじ） 最後に、吉田謙治委員、どうぞ。

○委員（吉田謙治） どうも、こんばんは。ようこそお越しいただきましてありがとうございます。公明党の吉田謙治と申します。

この委員会は、先ほどもありましたけども、20年・30年先の市民の皆さんが希望する暮らしをいかに創造していくかということで、こういったことを考えるところにその特徴がございます。私たちは——個々具体の提言については、また提言書を御覧いただければと思いますけれども、私たちは、未来都市の姿というのは、市民の皆さんの心の中にあるものだというふうに思っております。委員会では、専門家の先生方の御意見も伺いましたけれども、最後は市民の皆さんに私たちの議論を今ありましたようにお示しをさせていただいて、皆さんの思いや御意見を伺うことが最も重要であり、ある意味でこれが委員会の本来の成果だというふうに思っております。

近年の急速な技術進歩は本当に市民の幸福につながるのか、市民が本当に希望する姿になるのかということを考えなければいけないと思っております。例えば、誰も長時間、長距離の通勤・通学というのは嫌だと思っておりますけれども、通勤時間や勤務時間が短くなれば、夫婦共働きでも家事・育児を協力できるということがあります。

また、一方コロナ禍で在宅勤務が突然始まったわけでありましてけれども、通勤しなくてもいい反面、ずっと自宅にいるというのも困るかも分かりません。また、人と会うこともままならなくなって、何が人生にとって大切かということも考えざるを得なくなりました。そして、コンピューターやインターネットの進歩で人の仕事がなくなってしまうという心配も指摘されております。

未来をどうするのか、それは私たちがどうあれば幸福かを突き詰めていく先にあるべきであり、結局はそれを追求し続けるのが当委員会の使命ではないかと思っております。

これまでの社会は、大きなエネルギーをかけて人や物の移動を盛んにし、時間距離を縮めることに腐心してきました。それが豊かさの道だと思ってきました。しかし、それによるデメリットも顕在化しています。私たちの未来はどうあってほしいか、今後も市民の皆さんとの対話を通して検討を続けていきたいと思っております。今日は本当にありがとうございます。

○理事（やのこうじ） 以上で、未来都市創造に関する特別委員会の活動報告は終了いたしました。大変お待たせをいたしました。それでは、これより質疑応答を行います。

本日、御参加の皆様より事前に7つの質問をいただいておりますので、最初にその御質問にお答えしたいと存じます。その後、時間が許す限り、再質問や新たな方からの御質問をお受けしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。質疑応答は30分程度を予定しています。

まず、垂水区の大前様からいただいた質問です。提言書の5ページ、②ヒートアイランド現象の緩和のための緑化の推進に関連して、都市農地の多面的活用とは具体的にどのようなことを考えておられますかという質問をいただきました。

この質問につきましては、本委員会のあわはら理事から回答させていただきます。よろしく願いいたします。

○理事（あわはら富夫） それでは、都市農園の多面的な活用というのを今回私が提言させていただきましたので、私のほうから回答させていただきますと思います。

実は、今日の朝、NHKニュースで全く——これの実践的な事例が紹介されました。兵庫区の湊川エリアにある防災空地1,500平米を神戸市とURとNPOが一緒になって都市農園や都市公園にして、子育て、教育、福祉、エンタメなど様々な切り口で使い方を試していくという事業がいよいよ始まります。これみんなの農園という大阪のNPO法人なんですけれども、それがそういう都市農園なんかを工夫しながらいろんな形で文化、教育、福祉というものに役立つような切り口を考えていこうということで、その実践が神戸でも行われることになりました。したがって、災害空地にも当然なります。そして農地にもなる。さらには緑の保全にもなる。そして、子育てや教育や福祉やエンタメなどにも工夫すれば使える。こういう多面的な農地というのを都市の中に担保していくと。これは緑をつくることにもなりますし、環境問題にもなるし、また、福祉にもなる——高齢者が活用するということになれば福祉にもなる。しかもそれは災害空地にもなるという、そういう視点での都市農園の多面的な活用ということを私のほうで提案をさせていただきました。よろしく願いいたします。

○理事（やのこうじ） ほかの理事から何か補足などはありますか。

（なし）

○理事（やのこうじ） 大前様、よろしいでしょうか。もし再質問がございましたら、後ほどお願いをいたします。

それでは、次の質問に参ります。

灘区の三木様からいただいた御質問です。提言書の5ページ、④さんセンタープラザに関連して、三宮再整備とセンタープラザ、さんプラザ等のビル建て替えの関連について、概要を教えてくださいという質問をいただきました。

この質問につきましては、本委員会の河南理事から回答させていただきます。よろしく願いいたします。

○理事（河南ただかず） それではまず神戸市の考え方から御説明したいと思います。

このさんセンタープラザは、三宮の玄関口に位置して、三宮周辺の再整備基本構想において、

建て替え、更新が想定、または望まれるエリアとして位置づけられており、神戸市としても建て替え、再整備が必要だと認識しています。

このさんセンタープラザは3館ありますが、併せて400名を超える区分所有者さんがいらっしゃり、各館の理事によりビルの今後の在り方検討会が令和2年度から行われており、これまで5回開催されたと聞いております。先ほど説明がありましたが、都市再生緊急整備地域に位置しておりますので、再整備を行うことになれば用途規制や容積率制限の適用でメリットが受けられるものと理解しています。

神戸市としては、検討会が継続して実施され、都市計画の条件や再開発事業の仕組みを勉強しながら検討を進めていきたいということでございます。

あと、三宮の再整備との違いということで1つだけお伝えしたいなと思うことが、雲井通——これから工事が始まりますが——あるいは今あります市役所の2号館、これは神戸市が区分所有、地権を多く、過半以上持っているということでございます。

一方で、このさんセンタープラザの保有床は、神戸市は3分の1未満でございます。ということで、やはり多くの地権者の方、区分所有の方の賛同がなければ前に進みませんので、しっかりと地権者の御意見をお伺いしながら神戸市が中心となってやっていくということになると思います。

以上でございます。

○理事（やのこうじ） ほかの理事から何か補足などはありますか。

（なし）

○理事（やのこうじ） 三木様、もし再質問ございましたら、後ほどまたお願いをいたします。

それでは、次の質問に参ります。

垂水区の大前様からいただいた御質問です。提言書の7ページ、多様な移動ニーズに対応したサービスの提供、②先進的な交通手段のテストの受入れに関連して、西日本最大級のバスターミナル建設がなぜ必要なのか教えてくださいという質問をいただきました。

この質問につきましては、本委員会の高瀬副委員長から回答させていただきます。よろしくお願いをいたします。

○副委員長（高瀬勝也） 三宮駅周辺では高速バスまたホテルバス含めると1日当たり乗車と降車の合計で約1,700便発着しております。これは、実はバスタ新宿と同程度でございます——しかしながら、御案内のとおり、例えば、バスの発着場所が、空港行きのバスはJR三ノ宮の少し西側、あるいは国際会館の辺りにも長距離バス等がございます。このように、現在7か所に分散をしております——つまり乗換えが非常に分かりにくい、要は乗り場が分かりにくいということを克服するために1つの場所に整備をすることとしております。

ちなみに、先ほども冒頭で申し上げましたけれども、バスターミナル1期につきましては、国のバスタプロジェクトといたしまして、令和2年4月に国の直轄道路事業として事業化されたところでございます。

また、現在、三宮駅周辺を発着する中・長距離バスにつきましては、淡路島や四国など、西日本に向かうバスが多く占められておまして、これらを集約をして、鉄道駅と一体となる交通結節拠点をつくり出すということから、西日本最大級のターミナルになる計画でございます。

以上でございます。

○理事（やのこうじ） ほかの理事から何か補足などはありますか。

(なし)

○理事 (やのこうじ) 大前様、もし再質問ございましたら、また後ほどよろしくお願ひいたします。

それでは、次の質問に参ります。

東灘区の沖様からいただいた御質問です。提言書の7ページ、多様な移動ニーズに対応したサービスの提供、③空の道の整備に関連して、空の道についてお聞きしたく存じますという質問をいただきました。

この質問につきましては、本委員会の五島委員長から回答させていただきます。よろしくお願ひいたします。

○委員長 (五島大亮) 空の道についてお聞きしたいということで、非常にざっくりはしているんですけども、前向きな質問だろうなというふうに捉えさせていただいております。

空の道というふうに聞くと、ドローンであったり、空飛ぶ車というものを今研究していますけど、それが通る道が何やらここだよというふうに限定をされているように聞こえるんですけども、今それがまさに国のほうで、経産省と国交省がワーキンググループをつくっていろいろ審議をしているところだというふうに聞いておるんですが、空は誰のものでもないよというふうに聞いています。要は、ドローンであるとか、空飛ぶ車が飛ぶ場所は制限されるべきではないというふうな内容なんですけれども、それは全くそのとおりで、今後、ドローンであるとか、そういう空飛ぶ車が発展していった中では、ある程度安全を確保しながら、いろんなところを飛行できるような状態になっていくのではないかとというふうに思われています。

ただ、この神戸市も含めて今からドローンを実用できるものにしていこうとした中では、まだまだかなりの実証実験というものがが必要です。安全性の確保であったり技術の確立のために実証実験が必要だろうと。そのために、もう既に神戸の企業様の方々でいろんなドローンの実証実験などをしていただいております中なんですけれども、この実証実験のためのコースの整備というものがあって、いろんな企業が神戸市で——そういった最先端の技術を試す場を神戸市につくるべきではないかとというふうに思っております。

既に神戸市では、モビリティ・フィールドという、ドローンであるとか、最先端の5Gの実験の場をポートアイランドの第2期のほうに、約2ヘクタールの空間をお取りして、いろんな企業が協力して活動していただいております。そういった新技術を神戸市が県であったり、国と一体となって押し進めていくことで、今後万博のときに、万博の会場から空飛ぶ車で人が神戸に飛んでくる場所にするであるとか、その先は、やっぱり今中国製のドローンが世界を席卷しておるんですけども、この日本でドローン、空飛ぶ車の産業というものを日本、神戸に誘致してきて、今後の神戸の産業発展につなげていければいいのではないかとという意味で空の道を神戸に設定というふうに書かせていただいたところでございます。

○理事 (やのこうじ) ほかの理事から補足などはありますか。

(なし)

○理事 (やのこうじ) 沖様、もし再質問ございましたら、後ほどお願ひいたします。

それでは、次の質問に参ります。

垂水区の大前様からいただいた御質問です。

提言書の9ページ、誰もが共生できるまちづくりに関連して、ワーケーションの誘致で、市役所の新2号館の賃貸は魅力だが、空き家対策を兼ねて神戸の下町に誘致することも考えてもいい



のではないのでしょうかという質問をいただきました。

この質問につきましては、本委員会の三木理事から回答をさせていただきます。よろしく願います。

- 理事（三木しんじろう） 御質問ありがとうございます。ワーケーションについて御質問いただきました。ワーケーションというのは、簡単に言いますと、非日常の土地に行って仕事をするというようなものでして、主に神戸市外の方が神戸市に来ていただいて、例えば、六甲山とか須磨ビーチのところで仕事をするとか、そういった環境を変えて、生産性や心の健康を高めるという手段の1つであります。

サテライトオフィスに関しては、神戸市内の方が会社に行かなくても地方でオフィスを持って、そこで仕事をするというようなやり方なんですけれども、御存じのようにコロナ禍でテレワークというのが進みまして、今まさにコンピューターがあったり携帯電話があったり、そういうところで仕事ができる環境であって、このワーケーションというのも各自治体、神戸市以外でも力を入れているところであります。

今回の御質問では、空き家をワーケーションとかいろんなオフィスの場として活用したらどうですかというような御質問だったと思うんですけれども、神戸市の空き家対策というのは、もうどんどん空き家が増えているというのも現状です。相談数も令和3年度としては、一般の相談が1,154件、そして売買とか賃貸に向けた専門相談が166件、これは、神戸市の住まい総合窓口、すまいるネットで空き家等の活用相談窓口で相談された件数になります。神戸市は、空き家に対してももう既にオフィスとして使うような、例えば、コワーキングスペースとか、御指摘いただいたシェアオフィス等の活動はしております。これまだまだ実績は少ないんですけれども、兵庫区のほうであったというような説明を聞いております。

今後、空き家対策というのは必ずしていかないと駄目ですので、ぜひとも御指摘あったようにオフィスとしての活用、これも進めていかないと駄目だと思っております。御指摘ありがとうございます。

以上です。

- 理事（やのこうじ） ほかの理事から何か補足などはありますか。

（なし）

- 理事（やのこうじ） 大前様、もし再質問ありましたら後ほど重ねてお願いいたします。

それでは、次の質問に参ります。

中央区の鈴木様からいただいた御質問です。提言書の9ページ、①歴史資源を生かしたまちづくりに関連して、1、神戸駅は、最高格式の駅で非常に大切な歴史的資源であり、ほかとは一線を画す施設であると思いますが、格式や格調という価値観を神戸駅のブランディングの要素として取り込む予定はありますか、2、駅前広場から神社が目視できる場所の確保や大鳥居や大灯籠を模したモニュメントの設置など、神戸駅に降り立ったときに神社の存在が感じられるようにデザインの統一性を図る計画はありますか、3、神戸駅の北側地域は、市民のための文化地区としてゾーニングされています、再整備される駅前広場は、そうした非日常の楽しさが感じられる高いデザイン性があるものがあると思いますが、いかがでしょうかという3点の質問をいただきました。

この質問につきましては、五島委員長から回答させていただきます。よろしく願いをいたします。

○委員長（五島大亮） 3つ御質問いただいておりますが、最低限個人的には全て全くそのとおりであると考えております。

まず、格式、格調というところなんですけれども、神戸駅は本当に大変歴史のある駅でして、東海道本線と——何でしたっけ、ど忘れしました。西に行く線の……（「山陽本線。」の声あり）

山陽本線、失礼しました。山陽本線のスタート地点なんですよ。そういうこともあって、駅のデザインの中にもステンドグラスが分かれているようなデザインがあったりとか、あとは、やっぱり楠公さんというのが非常に歴史があって、西国街道とくっついて楠木正成公を祀る神戸の本当にパワースポットというか、そういう場所になっているために、そういったところを取り入れるというのは非常に価値のあるものだと考えております。

今の時点で計画があるかという、計画自体はそんなにないんですけども、神戸市が発表している素案の中にもそういう要素はもう既にありますし、我々もそういった楠公さんであるとか、格式、格調、こういったものを取り入れて、ほかの駅とは違う雰囲気、これを出していきたいというふうに考えております。

2番目なんですけれども、これも、神戸市ももう既に認識しております。そして、この提言にも書かせていただいておりますけれども、神社を感じるために1番何が効果的かという鳥居があることが効果的だろうなというふうに思っております。さらに、神戸駅の北側がそういう参道的な役割を持ったスペースになること、そして今2号線ですかね、幹線道路とちょっと隔絶されてるんですけども、横断歩道が楠公さんの正面じゃなくて横についてるじゃないですか、ああいう横断歩道をもっとセンターにつけて、真ん中を通して行けるようにしてはどうかとか、あとはそういう和の雰囲気を駅前、特に北側というか西側に前面に押し出して、他の駅前にはない雰囲気をつくって、オンリーワンの駅前にすればどうかというふうに考えております。市長もこの鳥居に関しては興味がある、いいじゃないかというふうに言っていて、これにはちょっと賛否両論もあるんですけども、進めていければと考えております。

3番目の、非日常と楽しさが感じられる高いデザイン性があるものということなんですけど、1と2の返答に包含されているというふうに思っております。こういった和の雰囲気を打ち出して、非日常を感じながら大倉山体育館に行けたり、その向こうの芸術を感じるゾーンとかに行けたり、そういった状態がいいのかなと。また、ハーバーランド側は別に和の雰囲気に統一する必要はなくて、こちらは本当に都会、アーバンの雰囲気でもいいのかなというふうに思っております。やっぱり楠公さん側を和の雰囲気に統一してほかにはないスペースにしたい、というふうに考えております。

○理事（やのこうじ） ほかの理事から何か補足などはありますか。

（なし）

○理事（やのこうじ） 鈴木様、もし再質問ございましたら、後ほどお願いをいたします。

それでは、次の質問に参ります。

中央区の森下様からいただいた御質問です。阪急、JR、雲井通、市役所建て替えなど、三宮エリアは大きく変化していきます。各事業者と連携し、シビックプライド、エリアマネジメントを考えたまちづくりを推進していただきたいと思っておりますという御意見をいただきました。

これにつきまして、本委員会の味口理事から回答させていただきます。よろしく願いいたします。

○**理事**（味口としゆき） どうも御質問ありがとうございます。このシビックプライド、エリアマネジメントを考慮したまちづくりを考える際に、やはり前提になるのは、今そこに暮らしている住民、それから、地域密着でなりわいをされている自営業者の皆さんの参加が大切になると考えます。その点で、三宮の再開発は、こうした地元の住民、自営業者からの意見ではなく、それを代弁する議会の議論からも離れて、市長がトップダウンで進められているということが非常に私は懸念されてると考えます。

また、手法自身も、久元市長は本会議で、三宮に集中投資をしているという御指摘は全く当たらないとしました。しかし、先ほども述べましたが、雲井通の再開発ビルだけで神戸市の負担は520億円にも上る、財政的負担は相当なもので、神戸市の今の財政の現状を考えても余りにも過大であるというふうに考えます。

私たち議員は、皆さんのお住まいの地域で、例えば、スーパーが閉店して、週1回の移動販売車に買い物を頼っているとか、身近に郵便ポストもなくバス路線もない、何とかしてほしいという要望をたくさん聞いています。もっと子供や教育にお金をかけてほしいという願いもあります。こうした願いに応えるのが基礎自治体である神戸市政の仕事ではないかと考えます。

また、御質問にある市役所の建て替えであります、にぎわいを重視するあまりに行政施設が中に収まり切らず、三宮周辺の貸しビルでの運営が想定をされています。これはエリアマネジメント以前の問題で、災害時への対応や神戸市の財政負担も考えると、私たちは再考するべきだと考えます。

市民が本当に神戸市に誇りを持つ上では、三宮や都心の再開発できれいになることのみが優先されるのではなく、それぞれのお住まいの地域が住みやすく、子育てや介護などがしやすいという点が考慮されるべきだと考えます。

以上であります。

○**理事**（やのこうじ） ほかの理事から何か補足などはありますか。

（なし）

○**理事**（やのこうじ） 森下様、もし再質問がございましたら、この後よろしく願いいたします。

それでは、ただいまから再質問、または新たな御質問をお受けいたします。

より多くの皆様の御質問をお受けしたいと思っておりますので、質問はお一人1回とさせていただきます。再質問の方も1回までとなります。また、質問は短くおまとめいただきますよう御協力をお願いいたします。

こちらでマイクをお運びいたしますので、お手元にマイクが来てから、お名前とお住まいの区をおっしゃっていただいてから御質問をお願いいたします。

現在、19時19分ですので、19時半ぐらいを目途に質問のほうを閉じる予定でございます。

それでは、御質問のある方は挙手をお願いいたします。

それでは、まず、大前様からよろしくお願いをいたします……（「隣。」の声あり）

隣、後呂様でしたかね、申し訳ありません。後呂様、よろしくお願いいたします。

○**質問者** どうも失礼いたします。このような機会をありがとうございます。

私、兵庫区の湊川に住んでおりますが、あちこち仕事柄行くんですが、神戸の禁煙対策が全然進んでないように思っていて、先般も東京と神戸と立て続けに参ったわけですが、道路にも壁にも至るところにこのエリアは禁煙であるという表示があるんですね。私は、たばこを抹殺しようとか、そういう意思を持っているものではございませんで、私が尊敬する方も愛煙家の方ですの

で、要は、公共の場、ほかの方がいらっしゃる場所での喫煙を御遠慮いただきたいということを申し上げているんですけども、神戸はそれはっきり申し上げて1番遅れているのではないかと、政令指定都市の中で。ですから、罰金も罰則も含めて公共のエリアでは吸わないような工夫を、人口流入を促進する意味でも、もう少しドラスティックに進めていただきたいと思うんですが、当面はそういう計画はおありでしょうか。

以上です。

○理事（やのこうじ） ありがとうございます。では五島委員長、よろしく願いいたします。

○委員長（五島大亮） ここからは事前のあれがないので、とりあえず私からまずお答えをさせていただきますと思います。

神戸市のほうは、多分もう後呂様、実際に他都市と神戸と比べていただいて、遅れているなどというふうに感じられたのはそのとおりなんじゃないかと思っておるんですけども、神戸市は、市内全域で路上喫煙をしない努力義務というのを設定しております。さらに路上喫煙禁止区域というのを設定しています。ただ、湊川神社の周辺にお住まいということで、駅のメインの周辺しかそういう設定がないのかなと、だからそういうふうに感じられているんじゃないかなというふうに思っております。神戸市のフラワーロード中心に三宮の中心地域は路上喫煙禁止ということで、吸った場合は過料を取られたり——罰金ですね——そういう取組はあるんですけども、恐らく今のところそういったものを劇的に進めようというふうにはなっていないのではないかなというふうに思います。

ただ、これから子育て中心のまちづくりをしていこうであるとか、そういうふうには神戸市は動こうとしておりますので、その動きには沿ったものになると思いますから、さらにそういった考えで、迷惑喫煙、受動喫煙をしないようにという意味でその取組を進めていけばいいのかなというふうに思います。

○理事（やのこうじ） このあと、江原様、出口様と質問していただきますが、本日質問をお受けするのは、本日報告させていただいた提言書の内容等に限定しておりますので、引き続きよろしく願いをいたします。

では、江原様、よろしく願いいたします。

○質問者 こんばんは。このような機会をいただきまして、誠にありがとうございます。

私は、灘区の江原章人といいます。質問なんですけれども、P12の⑤番、若者に選ばれるまちづくりなんですけれども、そこでちょっとお聞きしたいんですけれども、若い人は神戸から他府県に行ってしまう傾向が最近目立ってます。私の知り合いでも結構神戸生まれ、神戸育ちの人だったんですけれども、大阪に行ったりとか東京に行ったりする学生とか友達がいっぱいいました。いかに神戸市に若者をとどまらせるための施策はないのかというのをお聞きしたいんですけれども、教えていただけませんか。

○理事（やのこうじ） 五島委員長、よろしく願いいたします。

○委員長（五島大亮） 神戸市が——どうぞおかけになって——神戸市が若者に選ばれるまちづくりというのをテーマにしているのは、まさにそこに問題点があるからこそさせていただいております。若者に選ばれないと神戸市の人口問題というのは解消できないんじゃないかなというふうに考えております。データこうべというホームページを皆さん御存じか分からないんですけども、神戸市の人口ピラミッドをぱっと見れるようなホームページになっておりまして、そこを見ていただくと、20歳から24歳のピラミッドの人口分布からぼこっとちょっと減るわけですよ、

25歳以上からさっと減っていくわけです。そこは、なぜ減るのかというと、やっぱり大卒で神戸から出ていってしまう子が多いからそこが減ってしまっているというのが主な理由です。減ってしまっている主な理由がそこなんですけれども、ではそれをどういうふうに解決していくのかということなんですけど、やっぱり出ていく理由を解消してあげるのが主な目的なのかなど。神戸市を出て外に働きに行く理由、やっぱり東京にある一流企業、有名企業で働きたいであるとか、海外で活躍したいという子を止めるのは難しいかもしれないんですけれども、神戸市に既にある企業を応援して、そういった一流企業に育てていただくであるとか、あとは外にある会社を神戸市に誘致してそこで働いていただく、それから、先ほども言いましたドローンであるとか新技術を応援して、新しい産業を神戸市に興していく、こういった取組を着実に進めていくことがこの解消法ではないかなというふうに思っています。

そして、コロナの中でもちょっと顕在化してきたんですけれども、都心に住むよりもちょっと郊外、適度な疎というふうな言葉がちょっとあったかと思うんですけど、そういった適度に人口があまりいないところというふうに考えると、神戸はすごいアドバンテージがあると思ってまして、いい感じの都会——ちょっといい言葉が思いつかないんですけど、都会だけど人がそんなにごちゃごちゃしていないまちというふうな意味で、これからリモートで職場を——リモートで仕事ができる環境というのがどんどん整っていくと思いますので、そういった場合に自分のリアルの体をどこに置くかということ、もう住みたいところに置ける。だから住環境がすばらしいところに置けるという意味では、今日、提言させていただいたような、提言書にあるようなまちづくりそのものを進めていくことで、神戸にそういった若者世代が戻ってきて、働いていただける環境づくりというのできるんじゃないかなというふうに思っております。

○理事（やのこうじ） それでは、お待たせしました。最後に出口様、よろしく願いをいたします。

○質問者 長田区で仕事をしております出口俊一と申します。このような会に参加させてもらって、非常にいい勉強ができたことをお礼を申し上げたいと思いますが、私は、神戸のまちづくりということですので、新長田南再開発のことについて、提言があるのかなというふうに思って来たんですけども、もうどこにもないんですね。これはどこかのところがされているのか、あるいは今後される予定なのか、その辺りをお聞きしたいというふうに思います。

私ども、震災復興研究センターという、27年間やってきている市民団体ですが、市議会の各党派、無所属の皆さん方に私どもの報告書を提出させていただきました。同時に久元市長にも提出させていただいて、市長、直接対応していただいたんですが、市議会の皆さんの反応はあまりないんですね。少しだけあるんですけども、その辺でちょっと質問をしたいというふうに思いました。

以上です。

○理事（やのこうじ） 五島委員長、よろしくお願いします。

○委員長（五島大亮） 基本的に今日の提言は都心・三宮エリア、プラス都市再生緊急整備地域辺り、要は神戸駅ぐらまでの内容ということで限定をした提言書になっているので、この提言書にそこが入っていないことについては、ごめんなさいという以外はないんですけれども、出口さんたちを中心に新長田の再開発を再検証をされているのも知っておりますし、先日、報道にもありましたように——ちょっと新長田の再開発は失敗ではないのかというような報道もありました。この新長田の再開発をじゃあ今からどういうふうにしていくのかという話なんですけれども、以

前議会でも管理会社ですね——管理に非常にお金がかかっている体質というのをどうにかしないとけないんじゃないかというふうな問題がまだ続いていると思います。そういったことを1つ1つ解決するであるとか、新たに新長田に何か持ってこれるものはないのか、個人的には新しい建物を建てるよりも空き床に合同庁舎入れたほうがよかったんちゃうんかとか、そういったことを思ったりもしています。何か1つ1つそういったことを解決していく以外にはないのかなというふうには思っております。新長田の現状が非常にまだ問題がたくさんあるというのは、委員の皆さんも多分お分かりいただいていると思いますので、またこれからもいろんな働きかけをいただければと思う次第であります。ありがとうございます。

○**理事**（やのこうじ） これをもちまして質疑応答を終わらせていただきます。

それでは最後に、高瀬副委員長より閉会の挨拶を申し上げます。高瀬副委員長、よろしく願います。

○**副委員長**（高瀬勝也） 本日は、お忙しい中、市民報告会にお越しいただきまして誠にありがとうございます。

お手元にお配りをさせていただいてますけれども、御参加いただいた感想、また、御意見など、ぜひアンケートに御記入いただければと思っております。また皆様の御意見を今後の議論の参考にさせていただきたいと考えております。

本日はお忙しい中、御参加賜りまして誠にありがとうございました。

○**理事**（やのこうじ） これをもちまして、未来都市創造に関する特別委員会、市民報告会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

なお、机の上にアンケート用紙を置かせていただいておりますので、お時間がございましたら御記入の上、お帰りの際に出口に用意しております回収箱にお入れください。

本日は遅い時間まで本当にありがとうございました。お気をつけてお帰りくださいませ。

（午後7時31分閉会）